

収蔵品展 清川泰次記念ギャラリー

展示会活動 分館収蔵品展

令和4年度 第1期

清川泰次 白と線の時代

Taiji Kiyokawa:
The Era of White and Lines

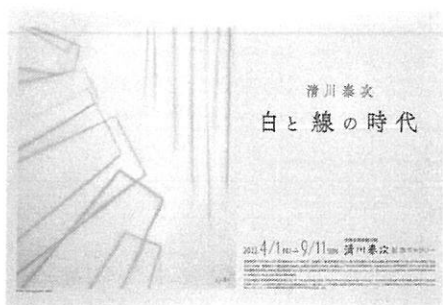
ものを写すことにとらわれない自由な表現を探究し続けた画家・清川泰次(1919-2000)。その約60年にわたる画業のうち、清川が独自の境地を見出した時期として1970～80年代の20年間は挙げられる。

1940年代に具象画からはじまった清川の絵画は、1950年代の渡米を機に、抽象的な表現へと変化した。色彩豊かな、マチエールを意識した色と線と面による表現を経たのち、1970年代になると、白く塗ったカンヴァスに灰色などで細く線を引くスタイルへと展開する。一見、無機質のようでありながら、あたたかみを感じさせる白や、淡い滲みをともしながら長く、短く、ときに四角形や楕円などのかたちを成す多様な線。これらが調和し、画面上の要素が極限まで簡素化された表現は、清川の目指した絵画のひとつの到達点であったと言える。

本展では、こうした清川の簡潔な構成美を、前後の画風の変遷とともにご紹介した。



A4 チラシ



B3ポスター

会期:2022年4月1日(金)～9月11日(日)

会場:清川泰次記念ギャラリー

入場者数:855人

主催:世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)

担当者:伊藤まりん、樋口菜呂奈

出品目録

〈大展示室〉

No.	作品名	制作年	材質、技法
1	20号の白の風景-56	1956	カンヴァス、油彩
2	早春-56	1956	カンヴァス、油彩
3	Painting No.NY2466	1966	カンヴァス、油彩
4	白の中の何本かの線	1972	カンヴァス、アクリル
5	白の世界 F6-73	1973	カンヴァス、油彩
6	Painting No.2473	1973	カンヴァス、アクリル
7	Painting No.317980	1980	カンヴァス、アクリル
8	Painting No.583	1983	カンヴァス、アクリル
9	Painting No.2283-4	1983	カンヴァス、アクリル
10	Painting No.684	1984	カンヴァス、アクリル
11	Painting No.784	1984	カンヴァス、アクリル
12	Painting No.1037980	1980	カンヴァス、アクリル
13	Painting No.2884	1984	カンヴァス、アクリル
14	Painting No.588	1988	カンヴァス、アクリル

〈小展示室〉

No.	作品名	制作年	材質、技法
15	Painting No.2883	1983	カンヴァス、アクリル
16	Painting No.2694	1994	カンヴァス、油彩、アクリル
17	Painting No.2794	1994	カンヴァス、油彩、アクリル
18	Painting No.2894	1994	カンヴァス、油彩、アクリル
19	Painting No.994	1994	カンヴァス、アクリル
20	Painting No.2296	1996	カンヴァス、アクリル
21	Painting No.2496	1996	カンヴァス、アクリル
22	Painting No.2696	1996	カンヴァス、アクリル
23	Painting No.2796	1996	カンヴァス、アクリル
24	Painting No.2896	1996	カンヴァス、アクリル
25	Painting No.697	1997	カンヴァス、アクリル
26	Painting No.797	1997	カンヴァス、アクリル
27	Painting No.897	1997	カンヴァス、アクリル
28	Painting No.598	1998	カンヴァス、アクリル
29	Painting No.3399	1999	カンヴァス、アクリル

資料

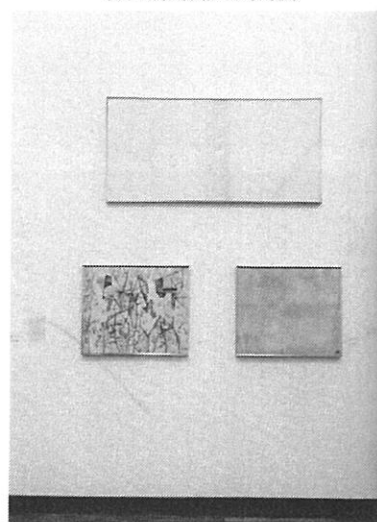
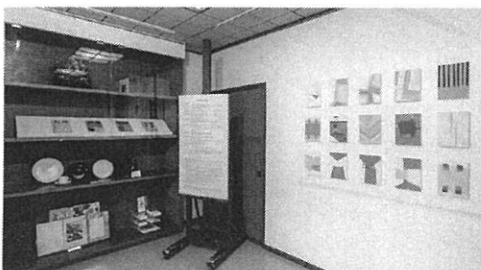
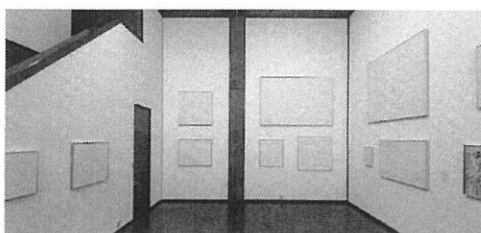
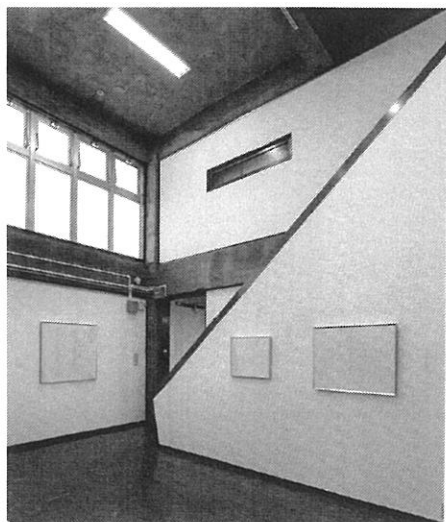
『群像』1962年1月特大号、講談社刊

『群像』1962年8月号、講談社刊

『群像』1962年11月号、講談社刊

『群像』1963年9月号、講談社刊

展示風景(撮影:上野則宏)



令和4年度 第2期

清川泰次 色をめぐるって

Taiji Kiyokawa:
Regarding Color

1940年代より画家として歩みはじめた清川泰次は、初期には具象的な表現で制作を重ねたが、1951年からの渡米を経て、色彩豊かな面や線による抽象画へと移行した。1960年代に二度目の渡米を果たした後は、白く塗ったカンヴァスに鉛筆の線を活かした独自の画風を確立、個展も精力的におこなった。その後、画面には色彩が戻り、幾何学的な形態を取り入れたスタイルへと展開する。

清川の絵画を色彩に着目してたどると、1950～60年代の油絵具の塗り重ねで得られる深い色合い、70～80年代に多用された明るい白、90年代以降のアクリル絵具による明快な色どうしの響き合いなど、その色調や色の組み合わせには、各年代の特色がうかがえる。

本展では、線や色面の構成による美を目指した清川の、色彩をめぐる探求の軌跡をご紹介します。

会期:2022年10月1日(土)～2023年3月12日(日)

会場:清川泰次記念ギャラリー

入場者数:951人

主催:世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)

担当者:伊藤まりん、樋口菜呂奈

出品目録

〈大展示室〉

No	作品名	制作年	材質、技法
1	牛のいる風景	1951	カンヴァス、油彩
2	飛行船の浮ぶ街	1953	カンヴァス、油彩
3	ブルシャンプルーの中に	1953-54	カンヴァス、油彩
4	Painting No.5-55	1955	カンヴァス、油彩
5	赤い四角沢山-62	1961-62	カンヴァス、油彩
6	イタリーの空	1962	カンヴァス、油彩
7	コーラルレッドの四角作品-62	1962	カンヴァス、油彩
8	むらさきの絵-63	1960-63	カンヴァス、油彩
9	黄色の浮遊	1961-63	カンヴァス、油彩
10	(不詳)白地にモスグリーン・黒・グレー	1960年代	カンヴァス、油彩
11	Painting No.3283	1983	カンヴァス、アクリル
12	Painting No.3990-91	1991	カンヴァス、油彩
13	Painting No.2593	1993	カンヴァス、油彩、アクリル
14	Painting No.1295	1995	カンヴァス、アクリル
15	Painting No.1495	1995	カンヴァス、アクリル
16	Painting No.3496	1996	カンヴァス、アクリル
17	Painting No.497	1997	カンヴァス、アクリル
18	Painting No.3799	1999	カンヴァス、油彩、アクリル

〈小展示室〉

No	作品名	制作年	材質、技法
19	Painting No.497980	1980	カンヴァス、アクリル
20	Painting No.677980	1980	カンヴァス、アクリル
21	Painting No.689	1989	カンヴァス、アクリル
22	Painting No.3490	1990	カンヴァス、油彩
23	Painting No.4590	1990	カンヴァス、アクリル
24	Painting No.2790-91	1991	カンヴァス、アクリル
25	Painting No.5491	1991	カンヴァス、アクリル
26	Painting No.1294	1994	カンヴァス、アクリル
27	Painting No.795	1995	カンヴァス、アクリル
28	Painting No.895	1995	カンヴァス、アクリル
29	Painting No.4096	1996	カンヴァス、アクリル
30	Painting No.4196	1996	カンヴァス、アクリル
31	Painting No.4296	1996	カンヴァス、油彩、アクリル
32	Painting No.5591-97	1997	カンヴァス、油彩
33	ブルー一色 サムホール	不詳	カンヴァス、油彩

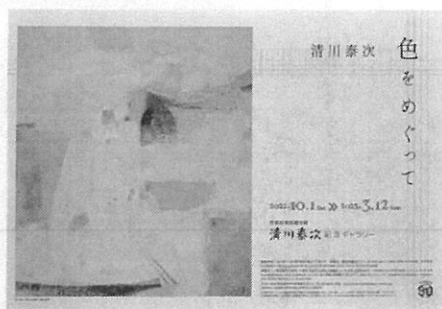
資料

『群像』1962年3月号、講談社刊

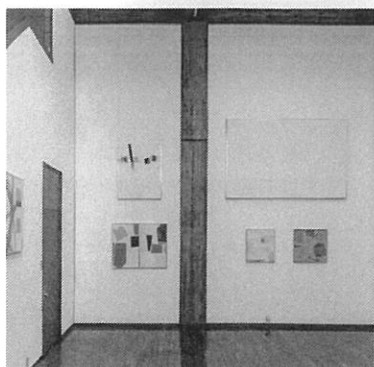
『群像』1962年5月特大号、講談社刊

『群像』1962年10月特別号、講談社刊

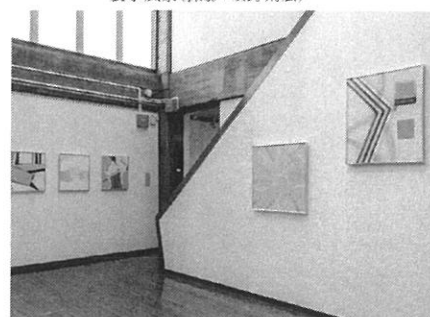
『群像』1963年5月創作大特集号、講談社刊



B3ポスター



A4チラシ



展示風景(撮影:上野則宏)